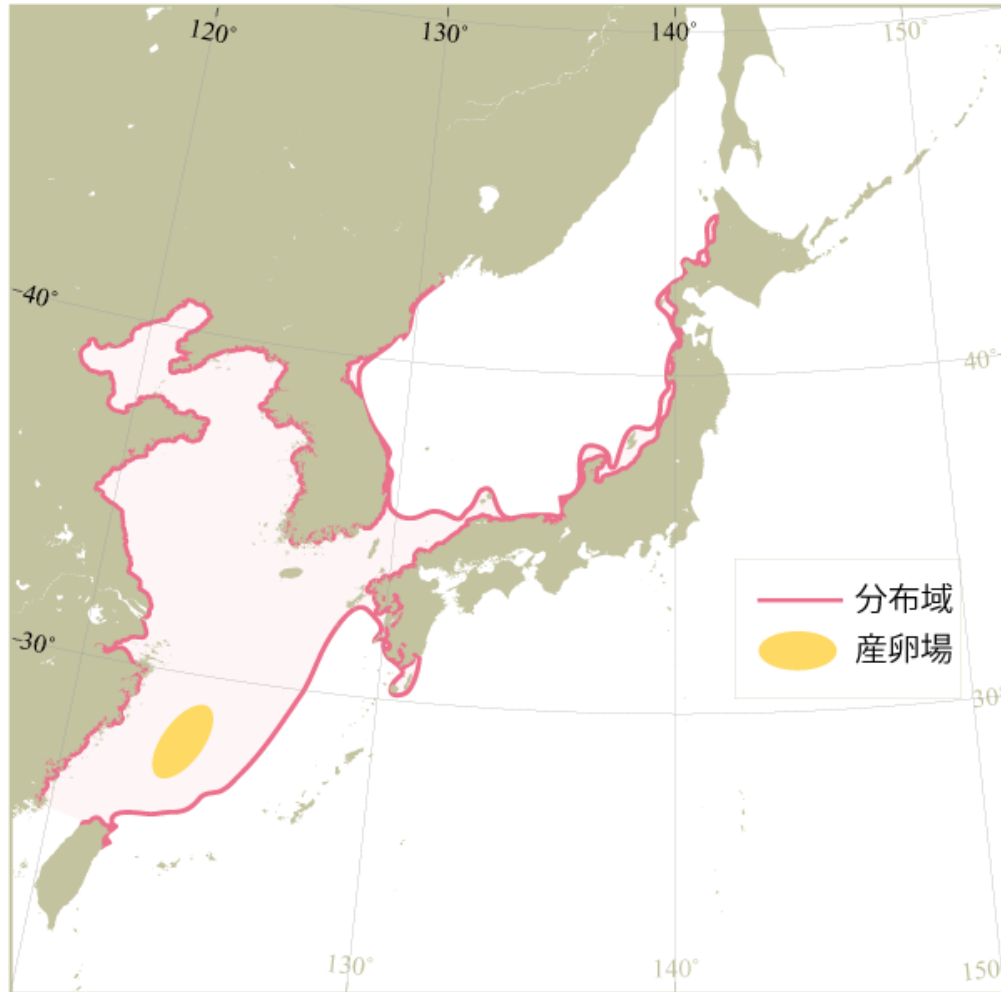




ウマツラハギ
日本海・東シナ海系群
令和5年度資源評価結果

生物学的特性

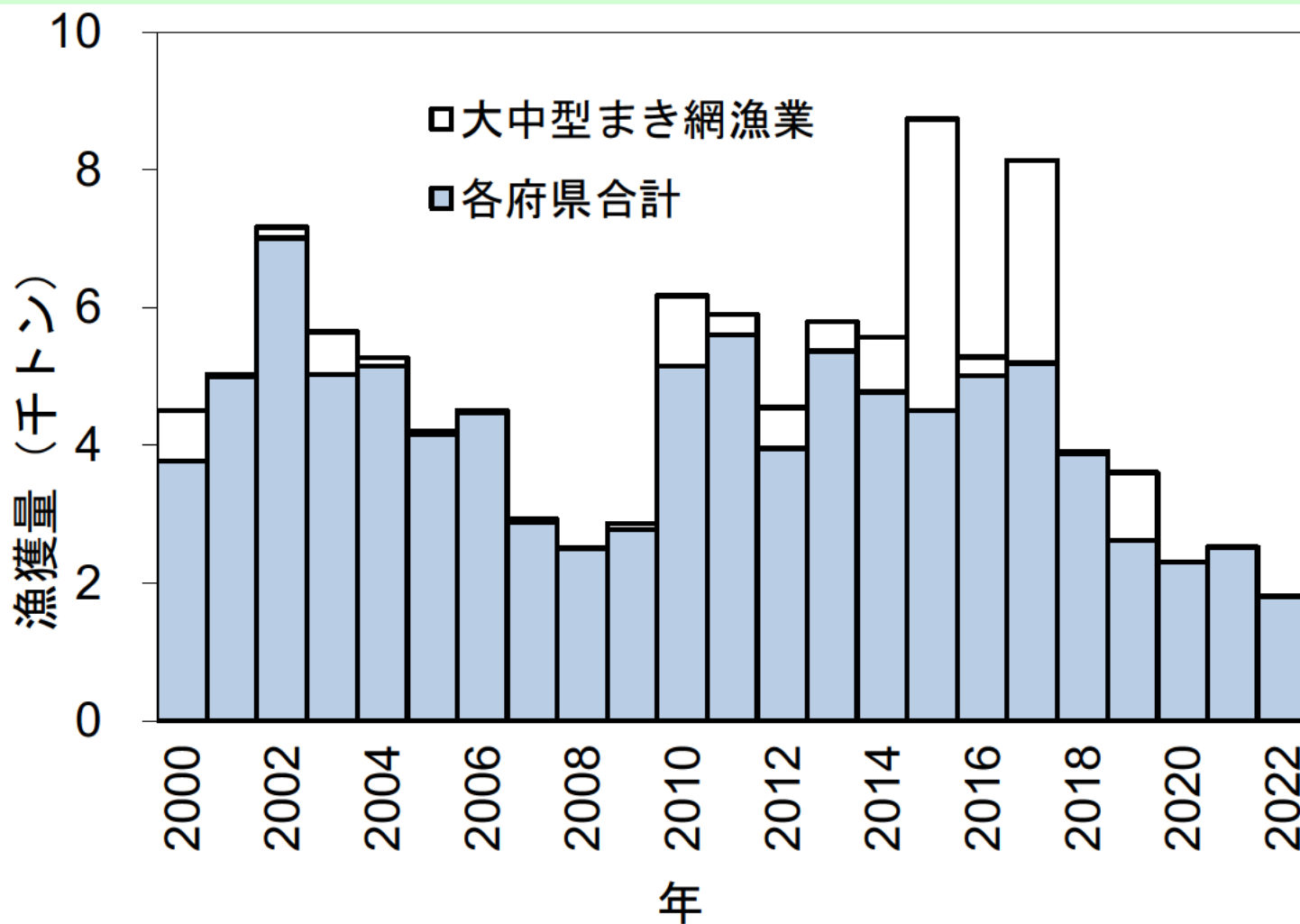


生物学的特性

- 寿命：10歳
- 成熟開始年齢：筑前海で雌雄ともに1歳（率不明）、新潟県沿岸の雌で1歳（率不明）、東シナ海の雌で2歳（率不明）、3歳（53%）、4歳（90～100%）
- 産卵期・産卵場：東シナ海域では4～6月、日本沿岸では5～7月
- 食性：カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類、ヨコエビ類、ウニ類、ヒトデ類、ヒドロ虫類、鉢クラゲ類、石灰藻を含む紅藻類および珪藻類
- 捕食者：魚類、頭足類等

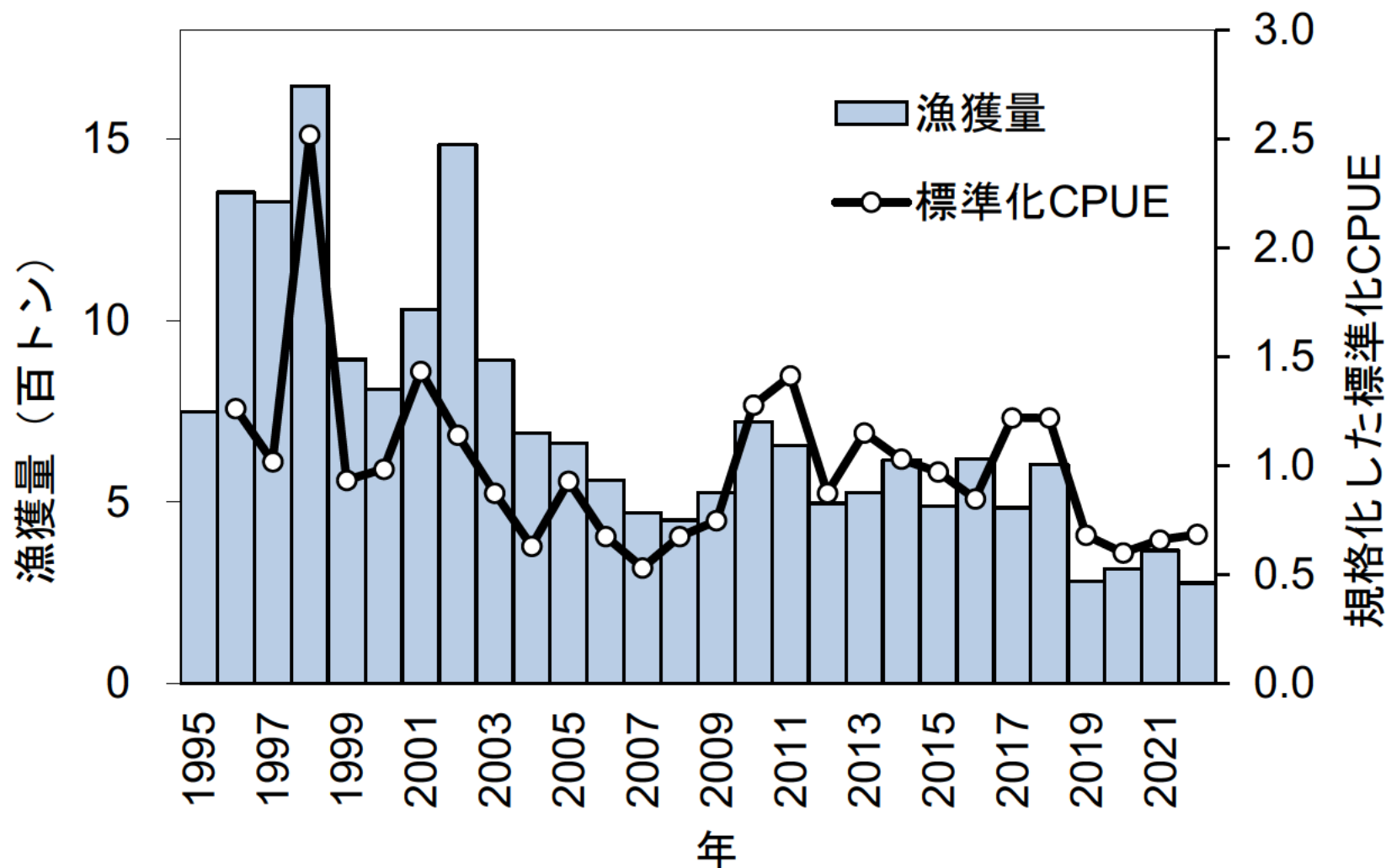
- 我が国周辺および東シナ海、黄海に分布
- 海域により成長が異なる

漁獲の動向①



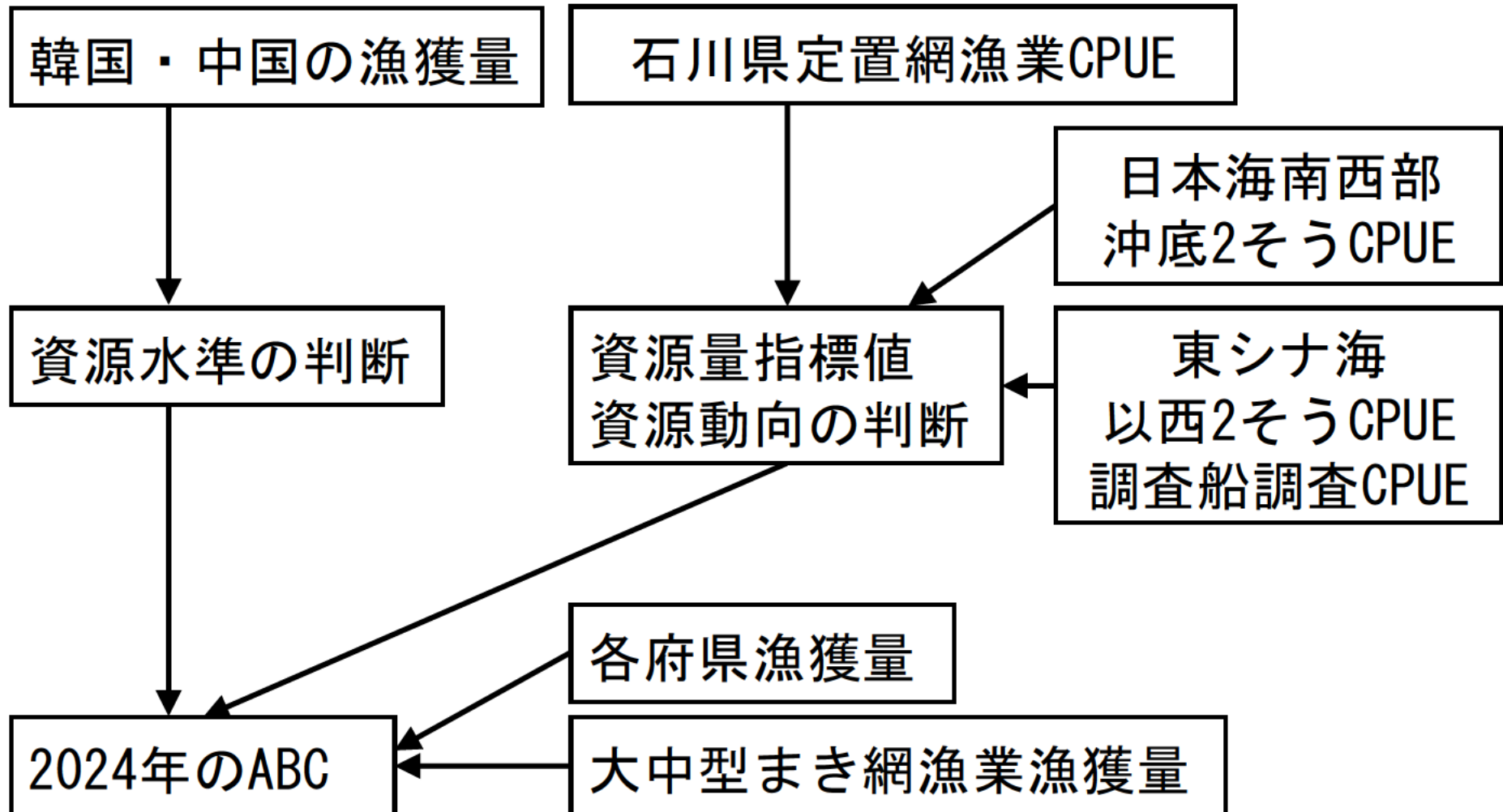
- 2018年以降の各府県漁獲量は減少傾向
- 大中型まき網漁業の水揚げ量は年変動が大きい
- 2022年の漁獲量：1,809トン

漁獲の動向②

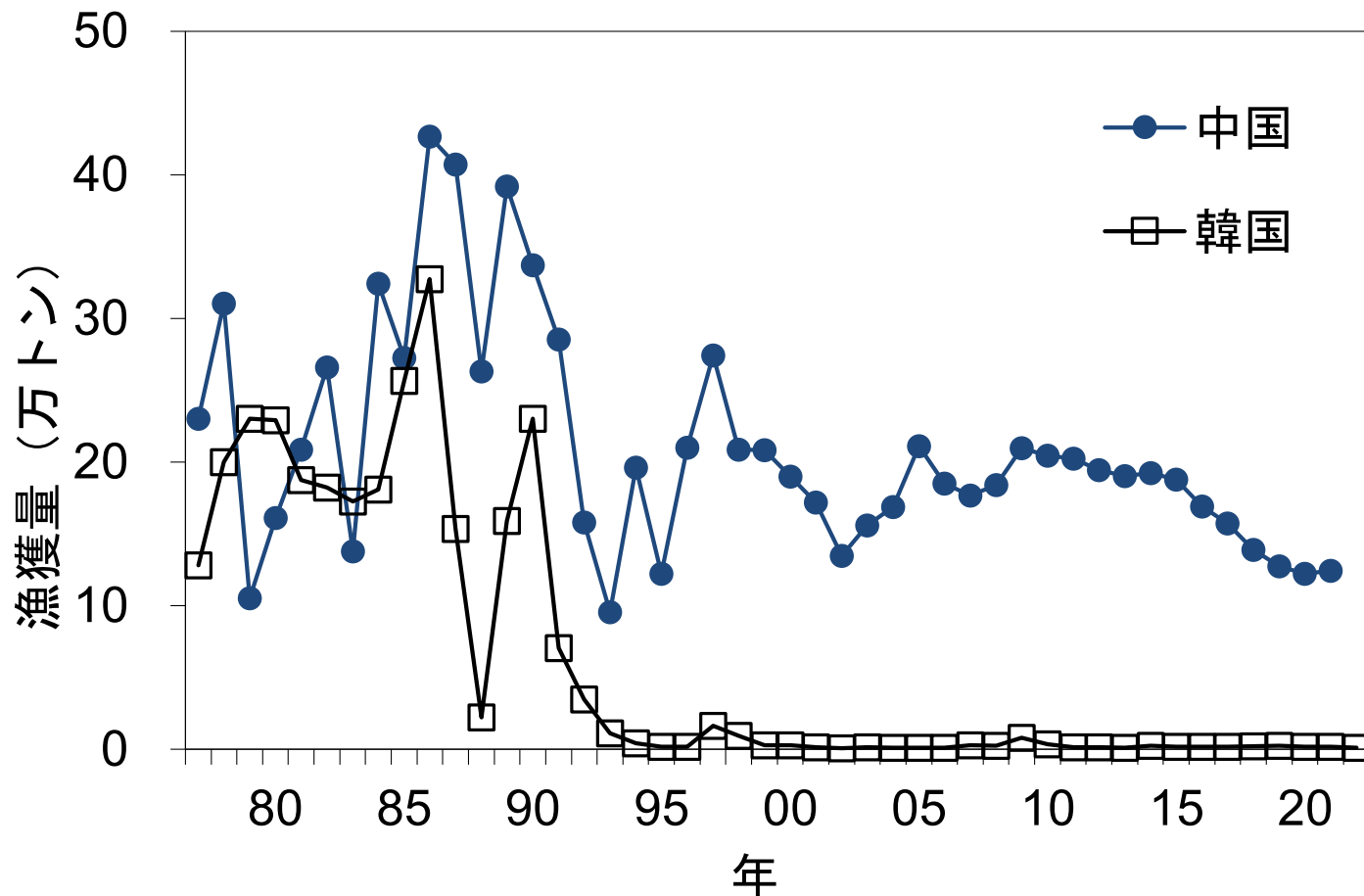


- 石川県における定置網漁業の漁獲量と単位努力量あたりの漁獲量 (CPUE)
- 1998年以降、漁獲量とCPUEともに緩やかに減少

資源評価の流れ

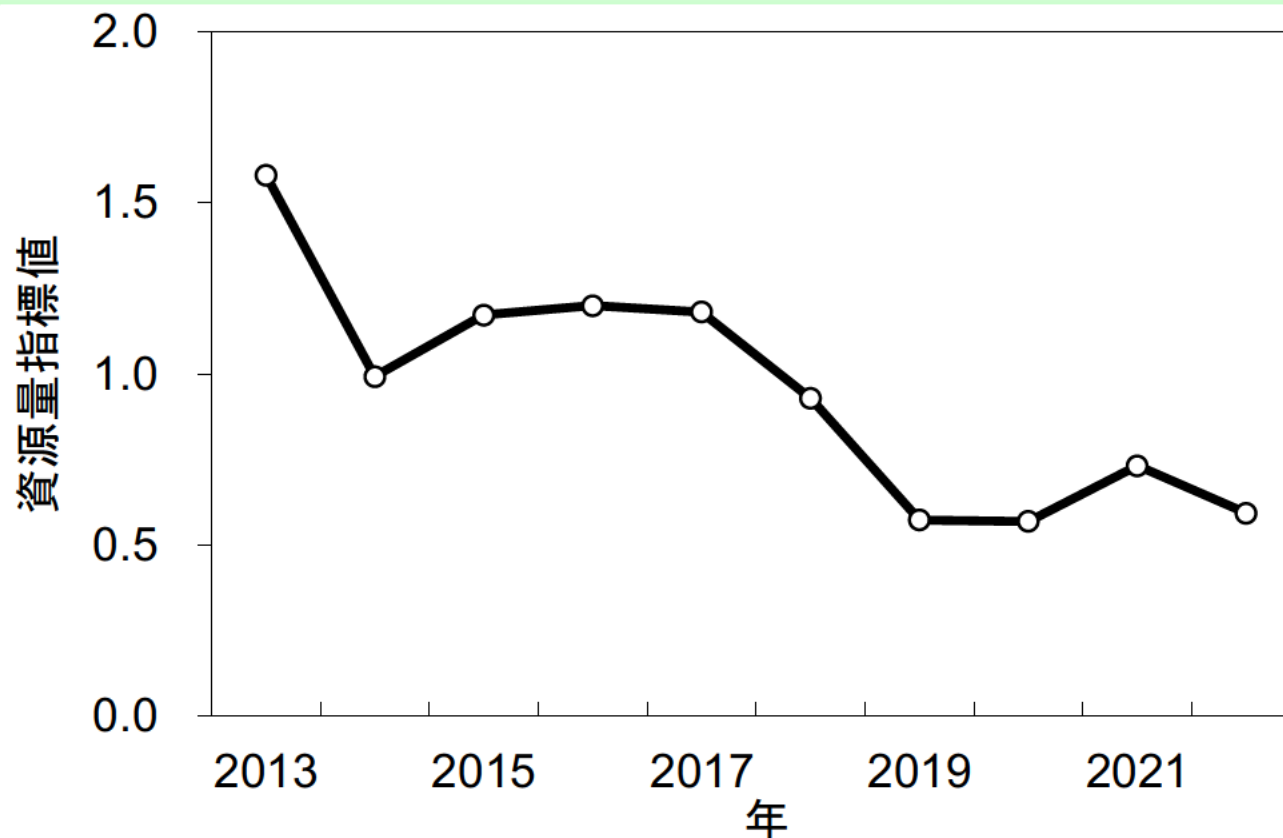


資源の動向①



- 1986年のカワハギ類漁獲量は中国と韓国合わせて75万トン
- 1992年以降低い水準で推移
- 資源水準：2022年の韓国と中国における漁獲量の水準から「低位」

資源の動向②



- 資源量指標値：石川県における定置網漁業CPUEと日本海南西部の沖合底びき網CPUEおよび東シナ海の以西底びき網と調査船CPUEの相乗平均から算出
- 資源動向：直近5年間（2018～2022年）の資源量指標値の推移から「減少」

資源評価のまとめ

- ウマヅラハギ日本海・東シナ海系群の資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 漁獲量および標準化CPUEに基づいて資源状態を判断

2024年ABC

管理基準	Target/Limit	2024年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの増減%）
0.7・Cave3-yr・ 1.02	Target	13	—	—
	Limit	16	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7（低位水準で平均漁獲量使用時の推奨値）
- Cave3-yr : 直近3年間（2020～2022年）の平均漁獲量
- γ_1 : 1.02（直近3年間の資源量指標値の傾きと平均値より算出）